



論点整理

第七章 その他諮問で提起された事項の在り方 ①

カリキュラム・マネジメントの在り方

顕在化している課題

- A** 「なぜカリマネが必要なのか」が十分に咀嚼（そしゃく）されない中、現行の書きぶりが結果として「カリマネ＝教科等横断の視点での教育課程編成」と理解され、単元配列表の作成が目的化している場合もある。
- B** 教育課程編成の中核である「指導上の課題解消・目標実現のため、どの教科を、どのような時数で、どのような日課の下で実現するか」という時間マネジメントが着目されにくく、今後の柔軟な教育課程の実現の観点から課題がある。
- C** 現行記載のカリマネの手順例は現場実務において具体化が難しいとの指摘もあり、Bとの関連からも見直しが必要である。



具体的な方向性と論点

- ① 今次改訂の趣旨を踏まえ、「何のために（目的）」「どのように（手段）」行われることが期待されるのかを構造的・具体的につかみやすい示し方をすること。
- ② 教育課程を核として学校運営の諸要素をつなげ、学校が直面する指導上の課題の解消という具体的成果につなげつつ、学校教育目標の実現に迫るという現実的な視点を重視すること。
- ③ 調整授業時数制度等の柔軟な教育課程の仕組みの活用により、何が可能となるのかを具体的に示すこと。
- ④ 過度な負担を避ける視点も重視（表形式化・デジタル化による効果、生成 AI を含むデジタルツールの活用の可能性も含む）
- ⑤ 全ての教師が当事者となり、カリマネを教師にとって意義を感じられる日常の取組とすること。

失敗したら、速やかにやり直す

あやま あらた こ あやま い
過 ち て 改 め ざ る、是 れ 過 ち と 謂 う。

（訳）間違いや失敗に気付いていながら、そのままにして改めないことの方が、
本当の過ちなのだ。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）